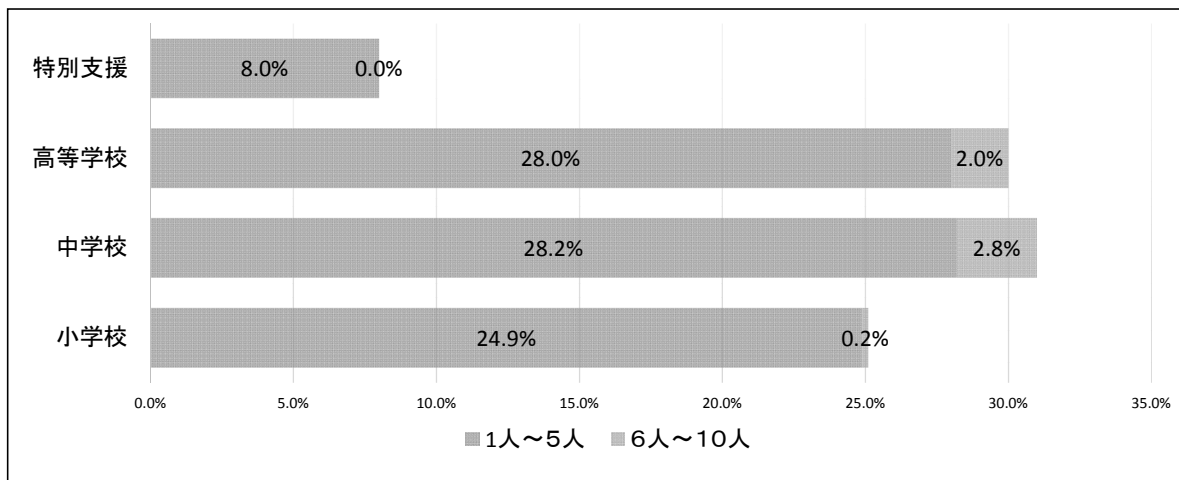


# 保健室登校支援の現状

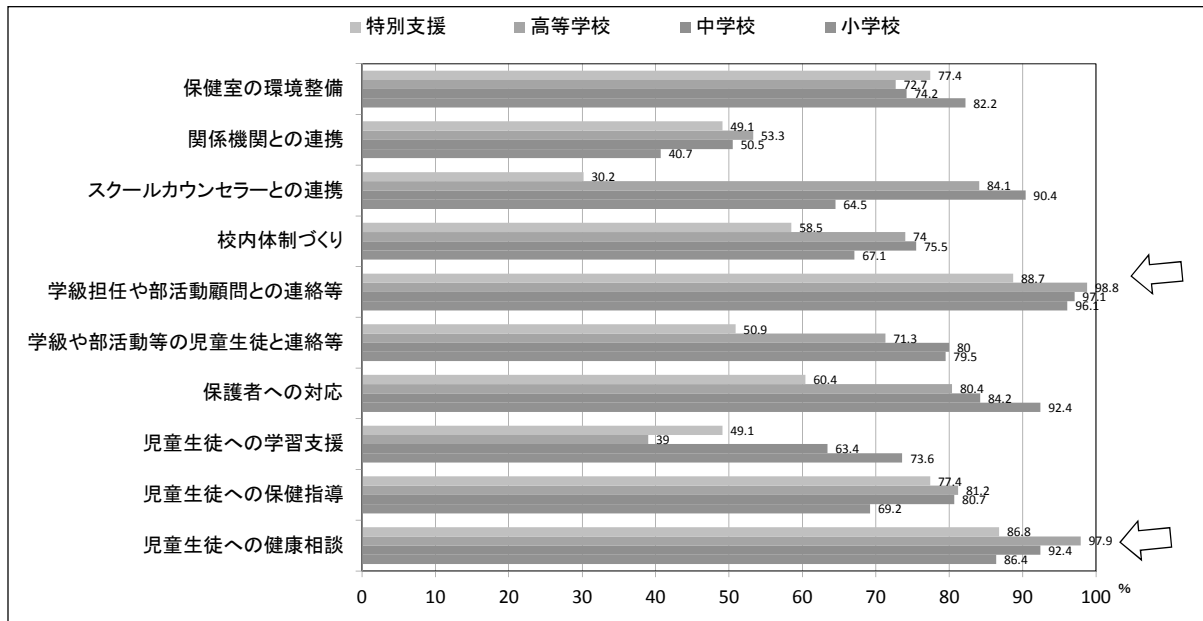
全国養護教諭連絡協議会調査結果と具体的支援事例からの報告

全国養護教諭連絡協議会 副会長  
福島県郡山市立大成小学校 養護教諭 湯田厚子

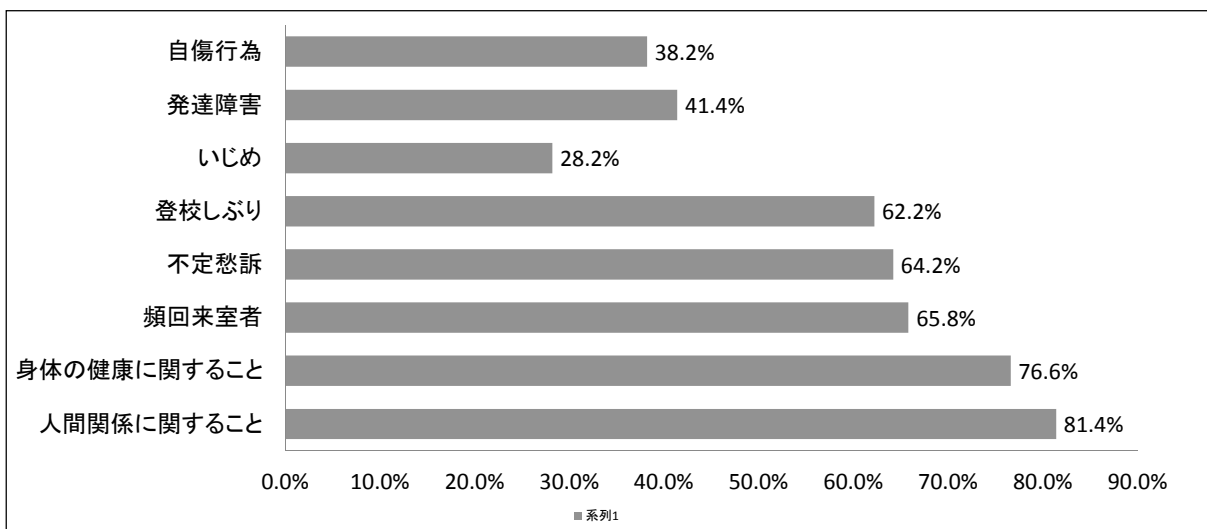
## 全国養護教諭連絡協議会 平成26年度 養護教諭の職務に関する調査結果から 校種別保健室登校児童生徒の割合



## 保健室登校でどのような支援をしたか？



## 主な健康相談事例の割合(複数回答)



## **事例 1** 不登校・保健室登校を経て教室復帰をしたA子

### ＜小4の概要＞

- ・ 登校しぶりはじまる。
- ・ 毎朝の過呼吸発現で、不登校になる。
- ・ 家庭において、不安定で暴れている。

### ＜小5～小6の概要＞

- ・ 小5始業式日に登校し、A子と養護教諭が会う。
- ・ 養護教諭が数日家庭訪問を実施する。
- ・ 保健室登校が始まる。
- ・ 校内の教職員と連携した保健室登校支援を開始する。
- ・ 保健室登校初期において、支援方針についてSCとの連携をはかる。
- ・ A子が、不安症状時に専門医療機関との連携支援をする。
- ・ 小6より、教室復帰ができる。

## **本事例における不登校・保健室登校支援の課題**

### ＜小4 不登校時期の対策から＞

- ◆ 不登校のきっかけやサインの見逃し
- ◆ 校内での連携ある支援介入の未実施
- ◆ 不登校による、子どもの自尊感情の低下

### ＜小5 保健室登校時期の対策から＞

- ◆ 開かれた保健室経営理解の難しさ
- ◆ 不登校により、子どもの自尊感情の回復と教室復帰までの期間の長期化

## 本事例における不登校・保健室登校支援の成果

<小5 保健室登校時期の対策から>

### ◇ 子ども・保護者との信頼関係の構築

- ・家庭訪問による状況把握と理解
- ・養護教諭のカウンセリング
- ・保護者との教育相談

### ◇ 適切な支援介入

- ・養護教諭のコーディネートによる校内支援委員会の開催
- ・SCや医療機関との連携
- ・具体的支援方針の明確化(個別支援計画の作成と活用)
- ・校内の組織での支援

### ◇ 教室復帰に向けての支援場所の提供と適切な支援

- ・保健室での子どもの心が安定・安心できる養護教諭の支援
- ・友だちとの交流による教室復帰への意欲向上
- ・担任との信頼関係の構築と教室復帰への意欲向上
- ・自尊感情、自己肯定感の回復

## 個別教育支援計画（中学校例 一部抜粋）

全国養護教諭連絡協議会研究誌「瑞星」9号より

### 長期目標

生活面	・毎日、登校して、クラスで授業を受けることができる。 ・人とのコミュニケーションをスムーズにできるようにする。 ・基本的な生活習慣を身に付ける。
学習面	・基本的な力をつける。

### 短期目標

生活面	・1週間に2～3日の登校をめざす。 ・登校したら保健室を心の安全基地として生活する。まずは、先生とのコミュニケーションを楽しむ。
学習面	・数学、国語は学習ルームで学習する。数学、国語以外は教室でクラスメイトとともに授業を受ける。

### 短期目標達成のための具体的な支援

	支援担当者	支援内容や方法
生活面	担任 養護教諭 特別支援コーディネーター 学年部担当者	・登校を無理強いせず、登校を本人とともに喜ぶ。 ・帰りたい時は、一度はそのまま学校でがんばることを提案し、本人の意志が固い時は、本人の気持ちを大切にす。ただし、担任に挨拶してから帰宅する。 ・明日も待っていることを伝え帰宅ができたか電話で確認する。
	担任 養護教諭 ハートケア相談員	・保健室で安心して過ごせるように場所を確保し、本人の生活の様子や、思いをしっかりと聴く。
	担任	・家庭訪問を行い、母に本人が規則的な生活が送れるように、また、登校できるように協力をお願いする。
学習面	担任 授業担当者 特別支援コーディネーター	・保健室のブースの中で学習に取り組む。事務的な作業で絶対的な自信を持って取り組むことができる教材を用意する。しっかりと取り組めたことを褒め、次の教材につなげる。

### 関係機関の支援・連携

<ul style="list-style-type: none"> <li>・母にスクールカウンセラーのカウンセリングを勧める。</li> <li>・育ちサポート室、家庭児童支援課、児童相談所と連携する。</li> </ul>
--

### 来年度への課題

4月から登校できるように、春季休業中に家庭訪問をする。2年時の担任だけではなく、複数で家庭訪問する。
--